

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）

出願人代理人
千葉 剛宏

様

あて名

〒 151-0053
東京都渋谷区代々木2丁目1番1号
新宿マインズタワー 16階

PCT
国際予備審査機関の見解書
(法第13条)
[PCT規則66]

発送日
(日.月.年)

13. 7. 2004

出願人又は代理人
の書類記号

03P148HEW000

応答期間

上記発送日から 2 月以内

国際出願番号

PCT/JPO3/15598

国際出願日

(日.月.年) 05. 12. 2003

優先日

(日.月.年) 06. 12. 2002

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl⁷ B23K20/12, B60B21/00

出願人 (氏名又は名称)

本田技研工業株式会社

1. ☐ 国際調査機関の作成した見解書は、国際予備審査機関の見解書と ☐ みなされる。
☐ みなされない。

2. この 1 回目の見解書は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
☐ 第II欄 優先権
☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
☒ 第V欄 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
☐ 第VI欄 ある種の引用文献
☐ 第VII欄 国際出願の不備
☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

DOCKETED

2004.9.13 39条補正 DOC.

3. 出願人は、この見解書に回答することが求められる。
いつ?

上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(e)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように? 法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。

なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。

回答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第2章) 作成の最終期限は、
PCT規則69.2の規定により 06. 04. 2005 である。

名称及びあて先

日本国特許庁 (IPEA/JP)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)
加藤 昌人

3P 9257

電話番号 03-3581-1101 内線 3362

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

☐ この見解書は、_____語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第	1-41	ページ	出願時に提出されたもの
第		ページ	付で国際予備審査機関が受理したもの
第		ページ	付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第	1-9, 16-31	項	出願時に提出されたもの
第		項	PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第		項	付で国際予備審査機関が受理したもの
第		項	付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第	1-23	ページ/図	出願時に提出されたもの
第		ページ/図	付で国際予備審査機関が受理したもの
第		ページ/図	付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

<input type="checkbox"/>	明細書	第		ページ
<input checked="" type="checkbox"/>	請求の範囲	第	10-15	項
<input type="checkbox"/>	図面	第		ページ/図
<input type="checkbox"/>	配列表(具体的に記載すること)			
<input type="checkbox"/>	配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること)			

4. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

<input type="checkbox"/>	明細書	第		ページ
<input type="checkbox"/>	請求の範囲	第		項
<input type="checkbox"/>	図面	第		ページ/図
<input type="checkbox"/>	配列表(具体的に記載すること)			
<input type="checkbox"/>	配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること)			

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-9, 16-31	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	5-9, 16-31	有
	請求の範囲	1-4	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-31	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

- 文献1: WO 99/33594 A1 (HAYES LEMMERZ INTERNATIONAL, INC.) 1999. 07. 08, 第4頁第21行-第5頁第15行, 第7頁第8行-第8頁第7行, 第1-4, 12-16図
- 文献2: EP 810055 A1 (THE BOEING COMPANY) 1997. 12. 03, 第9欄第57行-第10欄第6行, 第3図 & JP 10-71477 A
- 文献3: JP 2000-202646 A (日本軽金属株式会社) 2000. 07. 25, 特許請求の範囲, 発明の詳細な説明【0016】-【0025】, 第1-3図
- 文献4: WO 98/45080 A1 (ESAB AB) 1998. 10. 15, 特許請求の範囲, 第1図 & JP 2001-518848 A
- 文献5: JP 10-137952 A (昭和アルミニウム株式会社) 1998. 05. 26, 特許請求の範囲, 発明の詳細な説明【0014】, 第2図
- 文献6: JP 11-58040 A (昭和アルミニウム) 1999. 03. 02, 特許請求の範囲, 発明の詳細な説明【0017】, 【0019】-【0021】, 第1-3図
- 文献7: JP 2001-219280 A (財団法人新産業創造研究機構) 2001. 08. 14, 特許請求の範囲, 全図

請求の範囲1-4は、国際調査報告で引用された文献1、文献2及び文献3により新規性を有しない。文献1には、摩擦攪拌接合で突出部を有する円筒体を製造した後、突出部を削除する工程は記載されていないが、溶接分野において溶接開始部終了部に突出部（エンドタブ）を設け、溶接後削除することは良く知られており、また文献2にも摩擦攪拌接合する部材に突出部を設け、接合後削除する技術が開示されているので、文献1記載の発明において、文献2に記載された摩擦攪拌接合部の開始終了部に突出部を設ける手段を採用することは、当業者で有れば容易に想到し得たものである。また摩擦攪拌接合において、被接合部材を押圧して固定すること、摩擦攪拌接合工具と被接合部材とが傾斜していることは、文献3に記載されている。

請求の範囲5-9、16-31は、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも記載されたおらず、当業者にとって自明なものでもない。

